

MRIに使用する造影剤についての説明

<MRIに用いられる造影剤とは>

MRI造影検査に用いられる造影剤は、ガドリニウム造影剤といいます。造影剤を静脈より注入し、撮影を行います。造影剤を使用することにより、病変の存在や性状などが詳しく描出され診断に役立ちます。造影検査が患者様にとって有益と判断した場合に、お勧めしています。

造影剤を使用しないことにより、病気の種類によっては、病変が検出されなかったり、診断がつけられない場合があります。造影剤の使用を希望されない場合、他の検査での代用を検討しますが、検査法にはそれぞれ利点と欠点があります。ご不明な点がありましたら、医師に相談ください。

<ガドリニウム造影剤の使用について>

ガドリニウム過敏症の既往がある方・重篤な腎障害のある方・重篤な肝障害のある方・気管支喘息のある方は、造影剤を使用できない場合があります。また、妊婦・胎児への造影剤投与に関する安全性も確立されていません。不明な点がありましたら、医師・看護師・放射線技師などにお声掛けください。

<造影剤の副作用について>

造影剤を使用することにより、稀に副作用が起こる場合があります。副作用には次のようなものがあります。

- ①軽い副作用：吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、発疹など。起きる確率は1%以下です。治療を必要としないことが多いですが、薬の服用や注射等が必要になることもあります。
- ②重い副作用：呼吸障害、血圧低下、意識障害など。起こる確率は0.01%以下です。このような副作用は、通常治療が必要になり後遺症が残る可能性があります。そのため、入院、処置等が必要となる場合があります。
- ③重篤な腎障害をお持ちの方（透析患者等）にのみ発症がみられる重篤な副作用の報告があります。
※腎性全身性線維症：全身性症状で、皮膚の過剰な線維化により、皮膚の肥厚、関節の動き制限、強い拘縮が起こります。また、筋肉や心臓など多くの臓器に病気が及ぶことがあり、死にいたる場合があります。
- ④非常に稀ですが、病状・体質によっては100万人に1人の割合（0.0001%）で命に関わる副作用の報告もあります。
- ⑤造影剤が血管外に漏れてしまう場合があります。注射部が腫れ、痛みが伴うことがあります。通常時間がたてば吸収されますが、大量の場合には血行障害を予防するため切開などの処置が必要になることがあります。

当院では万が一の副作用に対して、万全の体制を整えて検査を行っております。もし、異常を感じましたら、すぐにお伝えください。

<造影検査前の食事について>

- ・造影検査を受けられる方は、検査の4時間前に食事を済ませて下さい。
- ・医師による飲水制限のない方は、水やお茶などの水分摂取は普段通りに行って構いません。しかし、牛乳などの油分の含むものは控えて下さい。
- ・お薬は医師の指示がない限り、普段通りにお飲み下さい。

※ 腹部検査 を受けられる方へ

- ・造影検査を受けられる方は、検査の4時間前に食事を済ませて下さい。
- ・水分摂取は検査時間2時間前までに済ませてください。
しかし、牛乳などの油分の含むものは控えて下さい。
- ・お薬は医師の指示がない限り、普段通りにお飲み下さい。
しかし検査当日、鉄サプリメントおよび鉄剤の服用を控えてください。

<造影検査後の注意について>

- ・造影剤使用後30分後から数日後に遅発性副作用が発生することが稀にあります。
発疹、発赤、悪心、嘔吐、血圧低下、頭痛などの症状です。万が一このような副作用と思われる症状がありましたら、速やかに病院へご連絡ください。
- ・授乳中の方は、医師または看護師にご相談ください。